高校阿倍野新聞

発行所
大阪市阿倍野区阪南町中一丁目30番34号
大阪府立阿倍野高校
新聞部
編集責任者　石井典子　土上典子

第24回　卒業式

第二十四回生の皆さん、ご卒業おめでとう。心から諸君のご卒業をお祝い申し上げます。

思えば昭和四十四年四月に本校に入学されてより、三か年にわたる本校生活は長いようで実際には短い月日だったと思います。この間には、一九七〇年に大阪万国博が開催せられ、諸君はまたとない意義ある六か月を経験したことでした。私が過日欧米視察にまいりました時も各地で（イランでも、ギリシアでも、ローマでも、パリでも、またアメリカでも）万博の話題に花が咲きました。あの年の四月には、諸君は学校から会場へ出かけて行ったことでした。

各地で学園紛争が起り、折角の勉強の期間が空白のままで終っていった学校もありましたし、本校においても、幾つかの課題をになってホームルームや、生徒集会を開くという、今迄にない経験をしたのも諸君の在学中でした。勿論修学旅行、体育大会、文化祭と楽しい思い出が多くあったことでしょうが、又一方にはつらい苦しい思い出も多くあったことだろうと思います。

―根津校長の言葉―
ハークスレーの名言を送る

四月からは新しい職場で活躍する人、目出度く大学への進学をかちとる人など、各人それぞれ異った道に進んでいくことになり、みんなそれぞれ新しい希望に胸をふくらませていることと思います。

この時に当り伝えておきたいことも沢山ありますけれども、私は次の言葉を「卒業アルバム」の片隅に記載して、諸君の座右に贈りたいと思います。

"Something of evrything,
evrything of something."

何のことかお判りかな？

この言葉は今を去る約百年前、イギリスで活躍していた「ハークスレー」（Thomas Henry Huxby 1825―95）という生物学者が言い残した名言です。彼は比較発生学の立場から、化石や類人猿の習性の研究を進めて、ダーウィンのために進化論の代弁者の役を果たした人で、現代の生物学の自然科学的な基礎づけのために不朽の業績を残した人です。この名言の意味は「一般的な事柄に関しては、如何なる事象にもひとかどの知識は知っていなければならないと同時に、或る幾つかの専門的な事柄に関しては、その総べての事象を研究しつくして専門家とならなければならない」というような意味かと思います。

諸君が大学に進みさらに高い教養を身につけようとする時にも、又実社会に出てそれぞれ専門の職場で活躍しようとする時にも、この言葉を胸にいだいて何かの役立ててほしいと思いわざわざ卒業アルバムの片隅に書き記しておきました。それからの長い人生において思い起して頂くことがあれば誠に幸いと思います。

詩
山頂から

山にのぼると
海は天まであがってくる。
なだれ落ちるような
若葉みどりのなか、
下のほうでしずかに
かっこうがないている。
風に吹かれて高いところに立つと
だれでもしずかに
世界の広さを考える、
ぼくは手を口にあてて
なにか下のほうに向かって
叫びたくなる、
五月の山は、
きらきらと明るくまぶしい。
きみは見たことがあるか、
山頂よりも上に、
青い大きな弧をえがく水平線を。

小野　十三郎

答辞

春の便りがきかれるようになった今日、私たちは、思い出多いこの阿倍野高校に別れを告げ、心あらたに未来に出発しようとしています。長い人生から見ればほんの一点にすぎなかったこの三年間でしたが、私たちの人生において、この時期にしか得られない数多くの貴重な経験や思い出を残してくれました。

高校生活最初の集団活動、それは遠足でした。桜の花びらの舞う吉野の山に立って、私たちは最初に得た友と語り合いました。二年生の時の修学旅行では、信州の山々の雄大さ、大正池の神秘さ、梓川の清流を見たときには、自然の素晴らしさに思わず感嘆の声をあげました。又、グリーンホテルでは、時間の経つのも忘れて夜のフォークダンスに興じ、軽井沢の澄みきった空気を胸いっぱい吸いこんでこのまま帰りたくない気持ちにおそわれたりしました。最後の日に、リンゴ狩りで取ってきたリンゴを夜、宿舎でそっと口にしながら、友と遅くまで話し合った時何事にも換えがたく、得がたい充実感を味わいました。これらは高校生活に於いて、良き思い出として残ることでしょう。

三年生になっての体育大会では柔道体操や創作ダンスそれに各種のリレーなどに、持っているだけの若いエネルギーを全てぶつけあい、そこには、勝っても負けても満足感が残っていました。又、仮装行列や文化祭の一般参加での喫茶店やお化け屋敷では、精一杯に趣向をこらし、集団の行動力、団結力を十分に発揮し、やればできるということを再認識すると同時に、他では得られない人間性をこの身で感じとりました。

しかしその反面、空虚感に似たようなものも心の中の一点に残ったのも事実です。二年生の時、多くの生徒が真剣に「集会」や「ビラ問題」について取り組み、ホームルームで各自の意見を闘わし、学年集会や生徒集会まで引き起こしたのは、ほんの一時的な高まりからだけだったのでしょうか。あれほど活発な意見が飛びかったにもかかわらず、これといった解答も見いだせないままに、今では何事もなかったかのように平静を保っています。

「無関心」「無責任」「無気力」といういわゆる三無主義的風潮に染まりつつあった私たちは、先生方やみんなと、受験のこと、社会のこと、学校のこと、人生のことなど、もっといろいろと話しあってみるべきだと思いながらも今日の卒業式を迎えてしまいました。しかし私たちは、多くの理想を掲げてきました。例えば体育大会、文化祭を自分たちの手で、というスローガンのもとに、体育大会の学年練習、総合練習においては、行進や号令を生徒自身の手によって行ないました。これは新しい試みです。これからも努力を続けていくことによって、もっと自主的に運営していけることと信じています。

私たちがこの三年間に得たものといえば、大部分の人々が、共に学んだクラスメートやクラブ活動で喜怒哀楽を分ちあった仲間の友情と答えるでしょうし、悔いとして残っていることといえば、惰性的な毎日を送ったことや、時には先生方に対する信頼感を失ったことなどを挙げるでしょう。得たものも、失ったものも、すべて高校生活の産物です。得たものは失わないように、失ったものは再び得るように心掛けていくそれが、今後私たちに残された課題の一つであろうと思います。又、これは在校生のみなさん一人一人に与える私たちからの課題でもあるのです。そして高校生活をより楽しくし、阿倍野高校をすばらしい学園にして下さい。

廊下を歩くと、ギィギィと鳴ってうるさく思ったり、教室、廊下でところかまわず落ちてくる壁にうんざりしたこの校舎も、半世紀の風雨に耐えてきたと思うとなつかしさが何よりも先に胸にうかびます。秋の五十周年式典に阿倍高生として出席できないことは残念です。しかし、私たちはそれぞれ新しい世界にたって心からお祝いします。

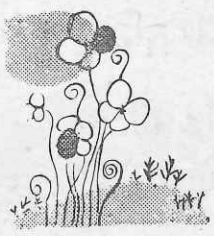
阿倍高生活について色々と述べましたが私たちはこの阿倍野高校での三年間学んだことを誇りに思い、胸を張って自慢することができます。

長くもありまた短くもあった高校生活に終止符をうち、今、分岐点に立っている私たちは、明日から各自それぞれの道を、未来に向って第一歩を力強く踏み出すのです。

最後になりましたが、いつも笑顔で私たちに接してくださり、気軽に「おはよう」とアイサツしてくださった校長先生、勝手きままだった私たちをいつも見守り、最後まで熱心に御指導してくださった諸先生方、ありがとうございました。煩わしい事も、いつでもいやな顔をせずに手ぎわよく応待してくださった事務室のみなさん、いつも目立たず、影の功労者となってくださった校務員のみなさんほんとうにありがとうございました。

それでは、五十周年を迎える阿倍野高校の明日への、発展を願ってここに、答辞といたします。

昭和四七年二月二五日
第二四回卒業生一同



部説
自治会員としての自覚をもとう

高校生の三無主義は、今に始まったことではないが、阿倍高生もこれに準じ、〝無気力〟〝無関心〟〝無責任〟の風潮にある。これは、一人一人が感じていることだろう。

しかし、だからといって、学校の自治に全く無関心であるかというと、そうでもない。ホームルームの時間を、のぞいて見ると、「長髪問題」や「制服自由化」について、活発に意見が交されるクラスもある。また、そこまでいかなくとも、友達同志の間では、しばしばそういうことについて、話し合う機会も多い。

そんなことが、どうして学校全体に広がらないのだろうか。そこには、私達の心の中に、退廃的なものがあるのではないかと思われる。「この学校では、私達一人の力は小さく、何を言っても無駄である」というようにあきらめてしまっているのではないだろうか。そんな人が一人から二人、二人から三人、そして全体へと広がり、なんともはないだろうか。

退廃的は集団を作っているのでそのような現状から、自治会選挙になると役員が出ない、ということになる。選挙管理委員やその他の説得で、どうにかこうにか立候補者は出るが、そこには当然無理が生じる。公約も形式的で空々しく、表面だけという感じである（今回の場合は公約も一人しか出ていなかったが）選挙にも、盛り上がりが見られず、まるでよそ事のようである。

自治会役員への立候補を呼びかける際に、「誰も立候補者がいないだろう。

生徒が学校の自治に関心を持ちこむ。学校全体を盛り上がらせるために、私達は何をすべきなのだろうか。

そこでよく各自がそれぞれ自覚を持とうと言われてきた。しかし、言われたからといってすぐに「私は、今日から自治会員として自覚を持てと言われましたので、自治会に猛烈に関心が深まりました」というわけにはいかないだろう。

生徒の自覚を促すため、つまり、私達が責任に目覚めるためには何をなすべきか。結局自分自身で自覚する他ないのではないだろうか。しかし、そのきっかけとなりうるものとして自治会執行部がある。

たとえば、次の様な事

・集会を行う（毎月一回ということになっているのに、今年度は一度も行なわれていない。ホーム・ルームを連絡事項の時間としてではなく、クラス活動や討議の時間として使う。
・投書箱の設置
・執行部主催の討論会等を開く
・執行委員会の報告

を執行部が行うことがきっかけとなって、学校全体が盛り上がるのではないだろうか。最後に〝執行部は私達と別な存在ではなく、また、私達は自治会員なのだ〟ということを忘れてはならない。

針の穴

「ほたるの光、窓の雪――」今日は、いよいよ卒業式ですね。針子なんか、今年も卒業できず。いったい、いつになったら卒業できるのかしら。▼ところで、グアム島で見つかった、元日本兵の横井庄一さん二月二日に元気に帰国されましたね。二十八年間もジャングル生活を耐えぬかれた忍耐力なんて、針子想像もつかないなあだって、針子机の前に一時間座っているので精一杯だもの……、みなさんはどうですかナ？▼「忍耐力」って言えば、冬季オリンピックが札幌で開かれましたね。各選手みんな練習を積み重ね、多くの人たちの中から選ばれただけあって、素晴しかったですね。阿倍高のみなさんは、もっぱら、テレビの視聴率を上げるのに、多大なる協力をしてるんしゃないかナ。▼一月に芸術鑑賞がありましたけどこちらの視聴率はどうでしたか？針子の客席見学によりますと、隣りの人の肩に頭を置いて睡眠中（？）の人が目立ちましたね。まるでアベックみたい。相手をダレカサンとお間違えじゃございませんかナ？▼ところで、金剛登山はどうでしたか？今年は、暖冬異変で針子が期待していた雪がなくってガッカリ。でも、登山て疲れますね。針子なんか、次の日になっても足腰が痛くって……。教室までの階段が恨めしく思えましたよ。こう思ったのは、針子だけではないんですよ。▼今頃は、一年の間でも火事が多い時期ですけど、原因の№1は何か御存知ですかな？「ストーブの火」なんて言わないで下さいね。それは、我が校でも問題になりました「タバコ」だそうですよ。だから、タバコにはくれぐれも御注意を！でないと、いつか、防災訓練でなく、本当に「バケツリレー」をしなければならなくなりますよ。▼一、二年は、もうすぐ学年末テストですね。天下分け目の合戦てところかナ？もうよろいをつけて、あとは待つばかりなんて言っていても、穴がいっぱいあいていたんしゃ「スキあり」で相手にやられますよ。最後の点検を！針子も無事進級できるように、ガンバラナクッチャ!!

針子

卒業特集
未来に向かって前進！

担任より、卒業生より
よく学びよく遊べ

■三年生のみなさん、御卒業おめでとうございます。この一年間、勉強やその他いろんなことに追いまくられたことでしょう。新聞部では、三年生の方々の卒業にあたり、三年各クラスの担任の先生から卒業生へ、各クラスの卒業生から担任の先生への言葉を対比する形で掲載しました。これが少しでも先生方と卒業生の交流になればと思っております。

■生徒からの言葉は、回収率等の関係により組によって大差が出来てしまい残念です。なお、三年担任の先生方、卒業生の方々には、アンケートに御協力くださったことを感謝します。それに受験のことでは、あれこれとお世話になりました。

■今後も阿倍高の向上に御努力を！

一組

▽高橋先生から△
卒業おめでとう。諸君は、今後実社会に出られ、あるいは学業を続けられるわけですが、各々、自らの道に励み、目標に邁進されることでしょう。これまでの学校生活においては、主として包括的な基礎を築くことに専念されたわけですが、今後は、社会的・個人的な、より深い理解を養い、さらにその上にたって、自己の能力、適性を生かすべく努力して下さい。決して容易な道ではなく、息の長い努力が必要とされるでしょう。諸君の健闘を祈ります。

▽生徒から△
・どうも一年間お世話になりました。
・がんばって下さい。
・評定5をいただいてありがとうございました。

二組

▽生徒から△
・いろいろとお世話になりました
・又、元気な顔を見せにこの阿倍高を訪れたいと思っています。
・言いたいことが、ありすぎて書けない。

※尚、安永先生の御都合により先生からの言葉は、掲載できませんでした。

三組

▽小西先生から△
酒を飲めば一時間は幸福になれる、結婚すれば三ケ月は幸福になれる、一生幸福になりたかったら座師になれ、と言った人がある。どうか終生、自然、芸術、学問を愛する人間であれ。毎日、一時間は固い椅子に端坐して、固い本を読め。週に一度は詩を朗詠し、音楽に傾聴せよ。月に一度は山野に分け入り、清流に漱げ。

▽生徒から△
・R・SRの授業が、とてもわかりやすくて感謝しています。
・いろいろめんどうな事でも、忙しい中をさいてすばやく処理してくださいまして、本当にありがとうございました。
・小西先生は無色透明無臭の先生で、それが一番先生のいい所だと思う。
・立派である。授業中にしゃべられても授業を続け、友達のようにつきあい、しゃれも冗談もとばす先生であった。

四組

▽藤村先生から△
三年前、着任した挨拶でこう書いた。「素直でいい生徒だ。然し覇気が足らん」と。今日、なおその感がする。一体いかにすればそれが可能になるのかと、今も尚、思い悩むのだが、果たせなかった自責の念のみが濃い。
教育というものは、ただ受けるものではなく、自ら開発することで成り立つものであるならば、至らぬ点を明らかにし、皆さんに委ねる他はあるまい。
「生涯稽古」と古人は言う。願わくば、その道ただ歩かれんことを。未来に光があらんことを。

▽生徒から△
・おからだを大切に、せいぜい長生きしてください。
・まったく出来の悪い生徒ですみませんでした。
・とってもとっても楽しくて、いい先生でした。サボリの私には適当にサボリの先生が、ピッタリ！

五組

▽森数先生から△
「よく学び、よく遊べ」あまり新鮮味のない言葉ですが、これをうまく実行できる人は、人生を楽しめる幸せな人だと思う。よく学ぶか、よく遊ぶかの、いづれか一方なら、だれにでもできることかもしれないが、その両方を兼ねることは、なかなかむずかしいことのように思われる。勉強のあい間に、フルートを吹いたり、絵を描いたり、山に登ったり、また、自分の専門以外の書物を広く読み、詩歌を楽しんだりしている人を見ると、自分もそんな変化に富み、充実した毎日が送れたらと、つくづく羨しく思われる。人、それぞれ、考え方や生き方に違いはあるが、とにかく、充実した、悔のない人生を送って下さい。
※尚、生徒からの言葉は、アンケートの回収が出来ませんでしたので、掲載できませんでした。

六組

▽梶川先生から△
諸君が三年間で知り得た大人たち、友人は限られたものであった世の中には実に多種多様な考え方生き方をしている多くの大人たち友人がいる。この中に立入ってまた考え、悩み自己のスケールに肉づけをしてもらいたい。何にもかけがいのない自分をどうか大切にしてほしいと思う。

▽生徒から△
・先生は勉強を教えるばかりではなく、我々の先輩であるからして、人生経験も豊富だと思う。だから、生徒にとって、よい話相手であってほしい。
・自分勝手なことばかり言って、先生をてこずらせたことと思います。これからは、自分の行動に、責任を持ちたいと思います
・どうもありがとうございました
いろいろお礼を申したいのですが、結局この一言につきると思います。

七組

▽号場先生から△
旺盛な知識を
「先生、書くもの持ってません」
「またか、これで早く」と何度も筆記用具を貸すそのつど手数よりも何よりも、諸君の基本的生活態度を考えさせられました。
古くは万延元年の遣米使節は知識欲に燃えて、到る処で、紙と矢立てで写生しメモをとり続けて、野蛮人とみなしていた米人を驚嘆させました。近年では東京裁判被告が克明なメモをとるのを外人記者が驚いて報じています。
朝日新聞論説委員故八田氏は高校生を前にして「手帳を活用し給え」と諭し、日常のメモが集積されて教養となりアイデアを生むものであることを強調されました。
卒業生諸君、ポケットに必ず手帳と筆記用具をもつ生活、すぐ血や肉を身につける心構えによって向上をめざしてほしいと念願します。

▽生徒から△
・テゴタエのある先生に。
・お世話になりました。
・三年間御指導くださってありがとうございます。

八組

▽佐々木先生から△
ご卒業おめでとうございます。
三年間の地道な努力が功を成して卒業出来ます事は平凡な事乍ら、誠に喜ばしい事であります。
大学に或いは社会に飛び立たれる皆様、人生は長いマラソンです目先の利にとらわれる事なく、阿倍高で鍛えられた、たくましき心身でもって、力強く一歩を踏み出されん事を希望します。
男性は大志を抱いて目的に向かって沈着冷静に努力を続け、女性は清く正しく常に微笑みを忘れる事なく豊かな心情の育成に恵念される事を希望します。

▽生徒から△
・三年間ありがとうございました
・就職のことで正直言ってあまり相談にのっていただけなかったり、気持ちをわかっていただけなかったりしたことが、とても残念でした。
・いろいろお世話になりました。
・もっと話し合いをしたかった。

思い出 短かった三年間

一年生

☆入学式
古い伝統のにおいがする（？）校舎に、緊張した面持ちで入ったあの日。校長先生の話を聞きながら、あるいは新しい仲間の顔をながめながら何を考え、何を決心したのか覚えていますか。

☆住高戦
負けてしまったけど、フォークダンスは楽しかったって？

☆体育大会
初めて体験した高校の体育大会先輩の勇ましい応援姿、美しいダンスの動き。着付競争で日頃の威厳は、どこかへ行ってしまったような格好の先生方。

☆文化祭
クラブであるいは学級で言葉に言い表わせないほどの充実感を味わった人も多いだろう。

☆金剛登山
入学以来の厳しい体育の授業で鍛えてあるので平気、平気。

二年生

☆遠足（万国博覧会見学）
覚えていますか？二年の時の遠足を。晴天の中を、行き先は万国博でしたネ。
クラス替えがあってすぐの遠足で、クラスの人全員を覚えきらないうちに行なわれ、また全く班単位の行動だったので、クラスとしてのまとまり、親睦はあまりみられませんでした。
だけど、あの時互いに横目で見た子が、体育祭では、修学旅行ではすっかり仲良くなって、協力し合いました。高校生活最後のたのしい遠足でした。

☆住高戦
今年こそ、勝利をと張り切ったけど、昨年に続き二連敗。無念！戦い終わって楽しいフォークダンス。気分が乗って来たところで、テネシーワルツと思ったら、これは阿倍高生には御法度なそうな。またまた無念。

☆クラスマッチ
梅雨時のうっとうしい天気の中でのクラスマッチ。三学年共通の混合バレーでは、一年を振り切って、みごと二一が優勝。なんと言っても、三学年共通だけに二一一の優勝は二年全体の喜びでした

☆体育祭
Aグループ（二年二・八組）が優勝、Dグループ（二年一・五組）が応援優勝となりました。この年は〝綱ひき〟〝パン食い競争〟〝千二百米耐久リレー〟等が消えて、変わりに〝玉入れ〟〝クラス対抗混合リレー〟が出ましたネ。〝綱ひき〟がなくなったのは、綱が切れる恐れがあるからとか、さすが阿倍高の女子ですネ。
コーラスファイアーも、「火」のそばに〝大移動〟がおこるという盛り上がりを見せて成功を収めました。

☆修学旅行
秋の信濃路―雄大な山々に囲まれて、ロマンを楽しんだ人、あるいは、景色だけを存分に楽しんだ人とさまざま。さあ、あなたはどうでしたか？
りんご狩、フォークダンス、コーラスファイアー等々が今も目をつぶると……。

三年生

☆クラスマッチ
六月十五、二十一、二十二日の三日間にわたって行なわれた。あいにくのつゆ空にもかかわらず、宮沢賢治並みに、「雨ニモマケズ泥ニモマケズ」といった感じだった。

☆体育大会
高校生活最後の体育大会。そして生徒の自主運営によって行なわれた最初の体育大会、いろんな意味で心に残ったのではないでしょうか。

☆文化祭
おなじみの喫茶店に食物屋。三年ともなれば、お姉さん、お兄さん方の手付きも慣れたもの。お化け屋敷のお化けだって慣れたもの？

☆札幌冬季オリンピック
すごい、すごい笠谷のジャプン日本、金銀銅独占の放送も横目でチラリ、なんてったってもうすぐ入試なのです。

☆卒業式
いよいよ阿倍高ともお別れ、グズン……。

学生生活を有意義に

在校生に一言

「さようなら、皆さん。また会おう」
「一日一日を精一杯生きよう」
「勇気を忘れるな」
「あらゆる面で活動的に」
「自己を見つめて、高校生活を大切に」
「自治会の活発化。会員の自覚を望む」
「適当に遊んで勉強せよ」
「何事に対しても、もっと活動的になってもらいたい。若さを発揮して」
「君達も同じ道を歩むのか」
「阿倍高のノンビリムードをぶっつぶせ」
「思いやりと、ゆとりのある心を」
「私が在校生に望むこと。それは建設来五十年の風雪に耐えてきたこのオンボロ校舎をきれいに保ってほしい。そして、ゴミの山の中で勉強するのでなく、清潔な環境で勉強してほしいということである」
『古い校舎とお思いでしょうが古い校舎ほどきれいにしがいがあるものでございます。いつになったら建て直してくれるでしょう。誰も建て直してくれないじゃありませんか』
「諸君、自分のやったことに責任を持とうではないか」
「悔いのない青春を！」
「二度とやり直しのきかない人生だから、一日一日を有意義に力一杯生きるように」
「特に柔道部に告ぐ。大会入賞をめざせ！」
「この学校で得た友情を大切にしてください」
「私は三年間、どうも『三無主義』の風潮に染まりかけたみたいでした。あなた達はそんな事のない様に早く目標を決めて、その目標に向かって前進していってください」
「よくがんばった！　もう一年か二年の辛抱だ」
「君達は不満の言いにくいものに対して陰でコソコソと内緒話をしないで、それが正しいこと」
「時々は、この学校に来てもらえたらなあ、なんて思っています。ぜひ顔を見せてください」
「自分の目的のためには、他人をもかえりみず、ということにはくれぐれもならないように」
「優しい先輩の顔がもう見れないなんて、残念です」
「非常にかわいがってくれて、ありがとうございました」
「卒業後も初心を忘れずに。そして、身体を大切にしてください」
「何事にも熱心に、まじめに、そして正直であってください」
「今日という日を大切に」
「勉強ばかりしていないで、遊ぶ事も忘れないように」
「求めよ、さらば与えられん」
「スマイルだなんてとんでもない。怒ってください。社会に」
「新しい未知の世界に大きく飛び立ってください」
「いつまでも阿倍高を忘れずに」
「これからが本当の試練の道なのです。がんばってください」
「一諸に塩の一斗もなめ合えるような、すばらしい友人を作ってください」
「いつも指導をありがとうございました」
「いつも大きい目を持って進んでください」
「社会の波にのまれることのないようがんばってください」
「今が一生の別れでないのだから〝さようなら〟なんて言わないで、又会いましょう」
「自己に厳しく」

卒業生に一言

「卒業おめでとうございます」
「社会の荒波に負けず、自分の力を大いに発揮して下さい」
「独立独歩」
「永遠の若さと勇気をもって進んでください」
「高校生活の思い出を忘れず、これからの苦しい時の良きささえとしてください」

見よ！この実態

―自治会役員選挙―

昭和四十六年度後期の自治会執行部役員選挙が一月二十八日、各HRにおいて行なわれた。書記に二年六組の瓦本寿々子、二学年代表に同じく二年六組の古賀久子、一学年代表に一年八組の坂本正孝と一年四組の春元礼子と決まった。

（敬称略）

一月二十八日（金）六限HR時に後期自治会執行部役員の選挙が行なわれた。今回は特に立候補者が少なく、書記、二学年女学代、一学年男女学代の四ポストのみという不活発な選挙状態であった。

この四ポストの役員では、執行委員会を開くための2/3の定員数に満たないために、執行委員会を開くことができず、そのため新執行部として、正式な活動が何一つ出来ない状態でのスタートとなってしまった。又、早く新執行部が成立しないと、昭和四十七年度の自治会予算を立てられず、自治会員特にクラブに入っている人への大きな影響が心配される。そのため選挙管理委員会では、あとのポストを早く選出するために一月二十九日（土）から補充選挙の告示を行なった。

又、今回の選挙方法の特徴としては、演説を校内放送を用いて行ない、投票を各HRで行なったことにある。このことにより、演説を暖かい教室で、楽に静かに聞くことができ、しかも投票もスピーディーなものとなった。

最後に、新旧執行部にいくつか質問してみた。

〔旧執行部に〕

問　何故今度立候補しなかったのか？（三年生と春元さんを除く）

答　半年活動をしてきて、我々の無知無力さがわかったから。

問　反省

答　教師と生徒の関係を明確に出きなかったのが残念です。

問　新執行部に望むこと。

答　生徒の力を結集し、集団としての力量を高め、学園を民主化する方向で何事にも取り組んでほしい。

問　何故執行部員立候補者がないと思うか？

答　集団としての自覚がないから

〔新執行部〕

問1、抱負

2、何故立候補しましたか？

3、何故、執行部員に立候補者がないと思うか？

4、その対策はどうしたら良いと思いますか？

書記

1、解答なし

2、クラスで推薦されたのがキッカケです。

3、みんなの関心がうすいのか？　役員になるのがいやなのか？　わからない。

4、いまのところ考えていません。

二年女子学代

1、執行部員の団結をはかり、仕事を着実にやっていきたい

2、自分の力を試したかったから。

3、みんなの連体感がうすいから。

4、みんなの自覚づけ。

一年男子学代

1、公約を守り、自治会に対する信頼を取りもどし、今までのような、不満や消極的な態度をなくしていきたいと思う

2、解答なし

3、積極性が欠けているのと、利己的な考え方があるから。

4、解答なし

一年女子学代

1、入学して以来、本校に多くの面で矛盾を感じているから

2、自治会員の意見を反映させるためにも、生徒集会を開きたいと思う。

3、三無主義かな？

4、気力、責任は生徒自身に任せるしかないが、無関心は、私達の努力で排除できると思う。

役職	候補者氏名	クラス	信任票	不信任票	当・落
書記	瓦本寿々子	2―6	514	168	当
Ⅱ学代（女）	古賀久子	2―6	313	43	当
Ⅰ学代（男）	坂本正孝	1―8	170	112	当
Ⅰ学代（男）	中林建一	1―4	120	149	落
Ⅰ学代（女）	春元礼子	1―4	200	126	当

―スポット―

協力不在のクラス

あるクラスの中をのぞいてみよう。何人かの生徒は遅刻をしてくる。授業が始まってもいたる所で雑談をしている。自習の「自」の字が職員室前の黒板にあろうものなら、その時間は両隣りが授業をしているのを忘れたかのように、大変騒がしい。またホームルーム時間中、本当ならば討議をしなければならない時でもいたる所で、内職をしている。一日の授業が終わって掃除をする時にも、当番はほうきや雑巾を持って、ペチャクチャ……。しかしこの様に、担当場所に残っているだけでもまだいい方だ。多くの生徒は自分が当番であるのを注意され、知っていてもすぐに帰ってしまう。このようなクラスの状態でよいのだろうか。

ある先生は次のように言われる。「みんな、クラスの仲間であるのだから互いに協力していくべきだ」この協力とはどのようなことであろう。前に示したようなクラスの状態は、クラスのみんなが協力していると言えば協力している。しかし、この様な協力の仕方で良いのだろうか。いったいクラスとはどのようなものでなければならないのだろうか。このクラスのあり方というのは〝高校生活とはどのようなものであるべきか〟ということから形成されているのではないだろうか。この高校というもののあり方が決まってこそ、クラスのあり方が決まるのではないだろうか。なぜならば、高校というものを、大学へ進むための予備校と考えるならば、自然に自分さえよければという考えからクラスができていくのではないか。現在、大学へ進むためには、自分自身と戦わねばならない。決して、多人数の集団による戦いのみではない。だから自然に自分さえよければいいという考え方のクラスができてしまうのではないだろうか。しかし、高校は高校であって、予備校であってはいけないはずである。そうするとクラスというものが、自分一人だけ良ければ良いという利己主義からは、生まれてはならない。しかし前に示したクラスは自分さえよければという利己主義から生まれたクラスの典型的なものではないだろうか。なぜならば、掃除はみんないやだと思っているもしも好きならば、用事もなしにさぼるはずはない。嫌いだからさぼるというのは、他人のことを考えずに自分一人が良ければよいという利己主義的考えなのである。我が校の生徒保健委員会でエネルギーや時間を使って、協力して掃除をするようにしむけても、多くの生徒は、掃除得点表の結果をみてはしゃぐだけに終わってしまう。そして、清掃の時などに先生がおられると真面目にやるが、先生がおられなければ、サボルということも、ある意味で利己的考えを持っているといえるのではないだろうか。その他にも、個人主義的考えを持つために、そうあってはいけないことがクラスに多く現われている。しかし、利己主義の生徒を見ている生徒もいけないと思う。みんなは、クラスの仲間であるのだから、互いに注意しあわなければいけないのではないだろうか。そのようなことが、クラス内で行なわれないために、個人主義的考えを持つ生徒が数を増していくのである。クラスの仲間のことを考え、毎日毎日きちんと掃除をしホームルームにおいても、積極的に参加している生徒が、個人主義の生徒から、「公害」をうけてなにも言わないのではいけない。「公害」を受けたならば直ちにその場で勇気を出して注意をしてあげないといけない。注意をすることによってその生徒も良くなり、クラスも良くなっていくのではないだろうか。互いに注意し、注意されあうことができるようなクラスが良いクラスといえるのではないだろうか。

エッセイ

―現代書生気質―

ハオリ、ハカマに、きたない手拭い。その上、すりきれた帽子を振りあげて「紅もゆる」といえば懐しき昔の書生。今や変わった。カラー・シャツにジーパン、ポマードとチックで、丹念につくりあげられたヒサシ髪を上下に揺らしロックを歌う今。ヘルメットをかぶり、マイクを握り、壇上にあがり、「我々は――」とやれば、いわずと知れた学生運動家。無責任、無気力、無関心、いいかげんに勉強し、いいかげんに遊ぶという、イイカゲン人間。一に勉強、二に勉強。○○高生と○○予備校生という肩書きを二つ持つ人間。朝から晩までクラブ、クラブ。勉強なんか後まわし。優勝旗を我が校へなんていう、クラブ一筋型。ペチャクチャラの雑談。俳優やスターの噂。異性の話。ファッションの話など、その他いろいろetc

一日、静かにしているのが拷問のようなオシャベリ人間。（特に女性に多い）ボーリングもイヤ、映画もいや。ムロン、スケートなんてとんでもない。宿題は一日も欠かさず、掃除なんか、さぼったことなし。これがマジメ人間etc

エトセトラ！　あげればあげるほどきりがない。

そして、この「多くの種族」の集団は、戦場へと向う。ムロン、受験戦争である。ペンと紙を握ってノ。ここで、この人間たちは、人に負けないための精神力と、脱落しないための忍耐力を養っている。

世は、急速なスピードで変わりつつあるのである。

あーどう生きてゆけばいいんだろうか、この世の中は。

キャンディー

京都お寺めぐり

▼平安神宮

今、ゴヤ展の開かれている、東京で言うと上野公園にあたる岡崎公園から、二～三分ほど歩くと有名な平安神宮がある。朝堂院（正庁）を中心にして、応天門が正面蒼竜楼が東白虎楼を西に配してすべてが朱塗りの建て物である。おみくじやお守りの売っている社務所の横に広さ約3.3平方㍍という広い回遊式の庭園の入り口がある拝観料は個人で行くと、高校生以上なら百円。少し高いような気もするが、じっくり歩けて日本の庭園を満喫させてくれる。藤棚や灯ろう、池などがあり、野バトが戯れていて春などにいくとぽかぽかして都会のざわめきを忘れさせてくれるだろうと思う。神宮の方は団体客などで参詣客も多いが、この庭園には団体客も少なく、落つく所である。

なお、京阪の三条駅からは、市電で一駅の東山三条で下車し、徒歩で五分ぐらいでつき国鉄京都駅からは、市バスがよいだろう。

▼智積院（ちしゃくいん）

京都駅から市電十分で東山七条を下車する。車道をそれていくと庭園の美しい寺、智積院がある。桃山時代の美しい襖絵があり、すべて国宝または重要文化財に指定されている。書院造りで古めかしい感じであるが、庭園は抜群である。この庭園は、千利休の作と伝えられている。広い池があり、建物との距離が近くて、池の水面に書院の廊下が浮かぶように設計されている。その廊下に腰を降ろして池のこいでも見ながら、友だちとしんみりと語るにはもってこいだと思う。池にしたたる水の音だけが聞こえて、京都という感じがする。

▼伏見稲荷大社

バス停稲荷下車、または京阪電鉄の伏見稲荷駅下車。

石の鳥居から階段を上る。拝殿には、五穀豊穣・商売繁昌の神様が祀られ、関西地方の商家の信仰が厚いそうだ。また拝殿横の東丸神社には入学祈願の参拝者が足を運んでいる。このほか、山内の塚をめぐり歩く参道は千本鳥居と呼ばれる道で、朱色の鳥居が林立している。しかし、実際ここを訪れてみて、一番心に残っているのは「重軽石」（おもかるいし）である。まず、石の前で手を合わせて小声で質問をする。そしてその質問のあとに「もし……になるならば石を重くして下さい」と言って石を持てば良い。普通なら持ち上げることのできる石も、持ち上がらないことがしばしばとか……割合に当たるそうである。一度やってみてはどうかと思うが、あくまで神社であるので、おもしろ半分ではやらないでもらいたい。

▼常照寺

光悦寺の近くだが、さほど有名でもない。山門から一歩足を踏み出すと、「サク、サク」という快い響きがする。しかし、この静かな山内では、異端者が入ったようで少し、気がねでもある。

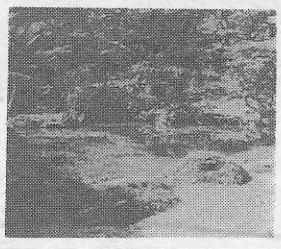
左側に庭があって、入口には、「拾円」と書かれた、拝観料を入れる箱が置いてある。

庭は手入れが行き届いているのか、あるいは自然にそうなったのか、落葉の成寸形、散り具合が美しい。まるで、雨水に流されたように、落葉が端の方に形を作っている。特に、十二月でも、紅葉が赤々としていた。

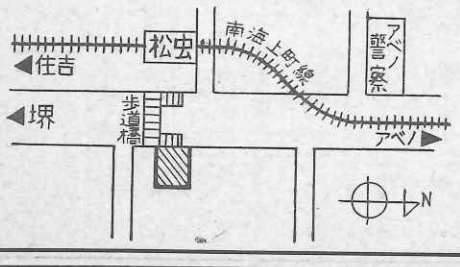
奥にある展望台、といってもたいしたものではないが、そこからの眺望が良い。良いというより、今までの道では、民家にじゃまされて見えなかった鷹ガ峰の山裾が目の前に迫っている驚きであろう観光客の群からソット抜け出し、一人を味わえる寺である。

▼南禅寺

市電で東山二条、バスなら南禅寺下車。タクシーで行くと、平安神宮から百五十円ほどで行ける。行く道の両側には湯豆腐などの豆腐料理の店が並んでいる。道を歩いて行くと、荒れた感じの大きな門がある。全体的に暗い感じがするお寺である。内部に十六羅漢像や、釈尊像、狩野派の襖絵などの文化遺産が多く安置されている。横の裏山には、一見西洋風を思わせるようなレンガの疏水管がある。そこの近くの石の階段を登って行くと、南禅院があり、小さな静寂な庭園がある。拝観料は三十円。



南禅寺

★山・スキー・各種スポーツ・服装・カップ・トロフィー★
専門店
大阪スポーツ


阿倍野区王子町1丁目4―18
―TEL（622）4351―

〔お願い〕・放課後は5時までにお願いします。
・自習時間は利用しないで下さい。
・あとかたずけをキチンとお願いします。
校内食堂　みのわ

芸術鑑賞
生徒が得たものは…

眠りにふける？

今年も例年通り、芸術鑑賞が相次いで行なわれた。一月十日には一年生の文楽鑑賞、同じく十九日には音楽鑑賞が、二十一日には二年生の能楽鑑賞という様に「、二年に共通して、旦ごろあまり見る機会のない古典芸術が中心となっていた。しかし、舞台での熱演にもかかわらず、客席では、居眠りをしている人が見うけられた。

文楽鑑賞

一月十日（月）九時三十分より道頓堀朝日座で、一年生の国語の授業の一端として、文楽鑑賞会が行なわれた。鑑賞したのは、「恋飛脚大和往来新口村の段」。これは、江戸時代の文楽に大きな功績のあった近松門左衛門の書いた「冥途の飛脚」を、後に菅専助・若竹笛躬が改作した作品である。

最初九時三十分から十時まで、文楽とはどういうものかという映画を見た。その中には、文楽の歴史のほかに、舞台裏の事や、人形を使う人が、自分の使う人形を作っている様子など、この様な機会でないと見られない内容もあった。その後、人形の動作を中心とした解説があった。人形とは思えない巧みな動きには、みんな感心したようだった。

それから、文楽鑑賞にはいった筋については、前もって古典の授業時に説明されていたし、床本までもらっていたために、全くわからないということはなかった。しかし、大夫特有の言い回しは、耳慣れない私達には、聞き取れない所が多かった。そのためか浄瑠璃が、私達のもっている床本のページの変わり目にくると、一斉に紙をめくる音がしていた。しかし、特に騒がしくならなかったし、鑑賞態度は悪くなかった。

今回の文楽鑑賞で感じた事の一つには、人形浄瑠璃を守っていこう、発展させようという心意気ということだ。文楽鑑賞によって、日本の古典芸術について何か胸をうたれるものがあったのではないかと思われる。

音楽鑑賞

一月十九日（水）二時三十分より、フェスティバルホールで一年生対象に、音楽鑑賞が行なわれた。内容は、「高校生のためのオーケストラ教室」で、楽団は、京都市交響楽団、指揮は佐藤功太郎氏独唱は岡田春美氏。

曲目は、序曲「謝肉祭」、歌劇「ボエーム」から〝わたしの名は〝ミミ〟（独唱）、歌劇「ちょうちょう夫人」から〝ある晴れた日に〟（独唱）、交響曲第四番「イタリア」の四つで、一時間程で終わった。

短時間ではあったが、最初はともかく、演奏が終わりに近づくにつれて、午後の事でもあったので居眠りをする人が多かったようである。

能・狂言鑑賞

二年生は、一月二十一日大阪市北区にある「大阪能楽会館」で新春恒例の〝能・狂言〟の鑑賞をした。日頃、ほとんどなじみのない能・狂言に、この機会を通して少しでも触れてみることができたのは良かったと思う。出し物は狂言「昆布売り」そして「仕舞」最後に能「巴（ともえ）」であった。

狂言の「昆布売り」は今の福井県小浜市の昆布売りが都へ出る途中に、ある武士と会って、武士が昆布売りをモテ遊んでいたのだが、最終的には逆に昆布売りに武士が、モテ遊ばれるという痛快な物語であった（何か世の中を風刺しているような感じもしたが）

さて次の仕舞は、全然踊りの経験のない（？）私達には分からなかった。最後にあった能「巴」は能の出し物五番あるうちの第二番で「修羅物」と呼ばれる残酷な戦いのものであるのだが、最初の間は、全然そんな感じもしなかったしかしクライマックスの場面になると、はやしもバックの歌いも激しく力強くなり、迫力だけでなく恐ろしさやこわささえも感じられた。そして最後は、巴、はやし方歌いの人たちが退いて終了したのである。

金剛登山
雪があればなあ…

去る二月三日（木）、一・二年生は例年どおり、金剛山へ第五回耐寒訓練に行った。今年は八年ぶりの暖冬で雪の〝ゆ〟の字も見あたらなかった。しかし、さすがに頂上は寒く、木々には樹氷ができていた。

八時過ぎに集合の合図が鳴り、第一グラウンドに集合した。前日に、『天候不順のために、授業の用意もしてくるように』という連絡があったので、両方の用意をしてきた人もいた。昭和町からバスで、一年生は、千早城跡まで二年生は、ロープウェー入口まで行った。麓にはまったく雪はなくアイゼンは不要となった。そして冷えこみ（？）のためか、トイレが満員で登る順序が、クラスまちまちになったようだ。一年生と二年生は登るコースと下るコースが逆で一～二時間で登れたようだ登っているときは、ほかぽかと暖かったが頂上へつくときすがに寒かった。せんざいを食べてあたたまった後、各自のお弁当を広げた持ってきたまきをくべてたき火をした。「時に集合がかかり、学級写真を撮った。

一時四十五分に下山しかかった『去年の方が雪も積もって、雪合戦などをして遊び楽しかったのに』と言う人もいた。

尚、当日参加しなかった者は、早朝訓練を行なった。

今年は耐寒訓練というより、冬のハイキングという感じで楽しかったようだ。しかし班行動であったためか、クラスとしてのまとまりはなかった。各学年とも最後のクラス活動であったのに残念であった。

訂正

昨年十二月二十四日に発行いたしました第一六七号の二面と四面の「部に誤りがありましたので、ここに訂正をいたします。

〈二面〉

二十五期生の修学旅行の記事の上より六段目、「雄大な浅間山」の中に書かれています牧水の歌に「語るらむ」とありますが、これは「語るらく」の誤りです。

〈四面〉

クラブ訪問の記事に関しましては、ある生徒から訂正を要するのではないかという意見が出され、新聞部で慎重に話し会った結果、次のように訂正いたします。

(一)二段目の第三段落
末解放部落（以下部落と記す）
→部落問題

(二)二段目の第二段落
部落差別から逃避せずに→部落問題に

(三)二段目の第三段落
部落問題の推進→同和教育の推進

(四)二段目の第三段落
「部落と七十年安保」→「安保と部落問題」

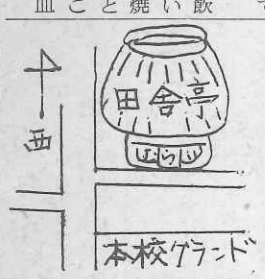
新聞部の手落のため、訂正が多くなりましたことをおわびいたします。

みちくさ

―むらい（田舎亭）―

第二グラウンドの南側の道をまっすぐ西へ五分程行くと、八百屋の隣に、このお好み焼き屋「むらい」がある。阿倍高生には、「むらい」より「田舎亭」で知られていることだろう。

お好み焼・たこ焼き・その他飲み物―ジュース類―が置かれている。お好み焼は一枚百円、たこ焼は、割合大きな玉が三個で十円と他の店よりも安いのがミソ。たこ焼を百円で食べても、三十個、皿に山盛りある。



店内は煩雑だが、肩の凝らない雰囲気がうけるのか、阿倍高生の利用客は多いようだ。中年のおばさん達数人でやっているが、中には阿倍高生と親しい人もいて楽しい。出前もあるが阿倍高へは来ないそうだ。

学校から近いし、安い田舎亭、財政難の阿倍高諸氏はどうぞ！

クラブ訪問
スキーに親しむ
生野高校スキー部

去る一月二十二日（土）我が新聞部員三名は、河内松原市にある生野高校スキー部を訪れた以下スキー部の面々と話し合ったことをしるしたものである。

さて、まず第一にクラブの目的は、普通のスキーのように滑べるというのだけではなく、競技会に出場し、良い成績をおさめることにある。そして入部後すぐに班分けが、行なわれる。これは、アルペン班とノルディック班というものでアルペン班とは滑降・回転・大回転競技というアルペン競技、同様にノルディック班は距離・飛躍・複合競技会に出場し、良い成績をおさめることにある。そして入部後すぐに班分けが、行なわれる。これは、アルペン班とノルディック班というものでアルペン班とは滑降・回転・大回転競技というアルペン競技、同様にノルディック班は距離・飛躍・複合に同じ場所に集合する。だからいるスポーツだけにランニングを多くするということだ。

又、理論を身につけるためにクラブ内でのミーティング、それに年二回、高体連スキー部主催の講習会に出席する。そうして総仕上げとして年二回の合宿を行なう。この合宿は他の運動クラブと異なり、大会直前に行なわれるので全国の学校が同時に年二回、高体連スキー部主催の講習会に出席する。そうして総仕上げとして年二回の合宿を行なう。この合宿は他の運動クラブと異なり、大会直前に行なわれるので全国の学校が同時に同じ場所に集合する。だからこれは他校との唯一の交流の場となる。今年は十二月の末、学校からのスキー講習会に同伴し六日間、志賀高原へ行った。又一月には、神鍋で四日間の合宿を行なったが、予定されていた競技会は、神鍋スキー場の雪が今年の暖冬異変で少ないとのことで惜しくも中止となった。競技会は、前に述べた神鍋そして三月には栂池での二回が行なわれる。これは、大阪大会で大阪府下三十校足らずが、日頃の技を競う。

しかし、冬のスポーツの花形といえば、聞こえはよいが、危険なスポーツの筆頭にあげられるスキー。よくケガもするそうだ。又、季節が、限定され、雪を求めて大阪府外へ出ていかなは、他のものと少し違う。これは、山道を登る時にすべらないようにするものでやはり値が高い。しかし、ノルディック競技（おもに長距離）は、雪の質によってワックスを変えなければならないのでスキー技術五十％ワックスの塗り方五十％とされている。だから、ノルディック競技に使うワックスは、絶対に必要なのである。といって親に頼っているばかりではとシーズンオフの夏休みには、アルバイトで自己負担の分を稼ぐそうだ

又、勉強面との両立という点では週に三日（月・水・金曜日）の練習だから大して影響はないとのこと。現在、部員は13名やはり部員は、これからもスキーは続けて行きたいそうだ。そしてスキーが、もっと大衆に密着すればということだ。

我々は、一時間程スキー部の面々と話し合い、なごりを惜しみながら別れを告げた。

編輯後記

三年生の皆さんにとっては、今号で阿倍高新聞は最後となってしまいました。今回からは一年生だけで発行することになり、皆さんの心の中にいつまでも残っているような素晴しい新聞にしようと一生懸命ファイトを燃やして作成にとりかかりましたが、まだ十分勉強を積んでいないために読みにくく内容も不十分で十分納得のいく新聞ではありませんが、少しでも多く読んでいただきたく思います前号のクラブ訪問の記事に関し、一部に訂正を要するのではないかと一生徒より指摘がありましたので、我が新聞部では連日部員が部室に集まって話し合いをし、その中で部員が意見を交換しあい大変勉強になりました。

尚、美術部の御協力に感謝をいたします。

文房具なら……何でもそろう
大谷文具店
阿倍高第二
グラウンド西側
第二グラウンド

ふじや
お好み焼・丼物・氷各種
〔阿倍野区阪南町1-37〕
ココ
タバコ
本校グラウンド